

IRMに基づくジャズアドリブの構造分析

-バップとモード間の比較-

Structural Analysis of Jazz Improvisation Based on IRM

-Comparison between Bebop and Modal Jazz-

学籍番号：201821604

氏名：池田 周平

Ikeda Shuhei

ジャズ音楽は発展の過程で即興演奏の様式や理論が複雑化し、被分析性の高い音楽といわれている。また、クラシック音楽と比べ、近代に生まれた音楽であることから、録音も多く残されている。そのような背景から、ジャズ音楽は音楽的研究の対象として価値が高い。本研究では、ジャズの即興演奏を対象に、「音楽創造のプロセス解明や音楽における意味の理解」を目標として掲げた。そのため、計算機上に記号表現された音楽の解析モデルを構築する。この方針は、「音楽における語法や意味をもつ構造は、記号表現された音楽から得られる」とする立場に基づいている。手法には確率的自由文脈文法を採用した。この手法は、記号系列を導出する文法を扱い、階層構造を学習することができる。本研究では、人間が音楽を認知する過程を理論化した Implication- Realization Model(IRM) の原理をもとに、独自の文法を定式化した。また、「バップ」と「モード」の 2 種類のジャズの即興演奏における様式を対等に扱い、比較している点も希少である。バップとモードを個別に対象として、両者の普遍的な構造、固有の構造を得ることを目的とする。バップとモードそれぞれの即興演奏データから語法や文法構造を学習した結果、バップの語法には「狭い音程で下行し、広い音程で上行する」傾向がみられた。モードの語法では、安定した音程を導く傾向がみられた。さらに、IRM における「連續性が強く、人間が予想しやすい音形」を導く語法を中心に使用する傾向が学習された。この性質はバップとモードに共通するものであった。一方、IRM における「人間の予想を断ち切り、新たな展開を感じる音形」を導く語法においては、使用率は低いものの、バップとモード間で大きな差があらわれた。これらの語法は、バップらしい旋律、モードらしい旋律を理解する上で重要になると考える。今後は本研究で獲得したモデルを応用し、演奏の背景に存在する意図や音楽理論に基づく即興演奏の構造解析システムや演奏生成システムの実現を目指す。

研究指導教員：平賀 謙

副研究指導教員：寺澤 洋子